
令和 7 年 第 6 回 臨時会

上富良野町議会会議録

令和 7 年 10 月 21 日

上富良野町議会

目 次

第 1 号（10月21日）

○議 事 日 程	1
○出 席 議 員	1
○欠 席 議 員	1
○遅 参 議 員	1
○早 退 議 員	1
○地方自治法第121条による説明員の職氏名	1
○議会事務局出席職員	1
○開会宣告・開議宣告	2
○議会運営等諸般の報告	2
○日程第 1 会議録署名議員の指名について	2
○日程第 2 会期の決定について	2
○日程第 3 議案第1号 専決処分の承認を求めることについて（令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第4号））	2
○日程第 4 議案第2号 令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第5号）	3
○日程第 5 議案第3号 副町長の選任について	10
○閉 会 宣 告	10

令和7年第6回上富良野町議会臨時会付議事件一覧表

議案 番号	件 名	議決月日	結 果
1	専決処分の承認を求めることについて（令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第4号））	10月21日	原案可決
2	令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第5号）	10月21日	原案可決
3	副町長の選任について	10月21日	同意可決

○議事日程

- 第 1 会議録署名議員の指名について
- 第 2 会期の決定について 10月21日 1日間
- 第 3 議案第1号 専決処分の承認を求めることについて（令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第4号））
- 第 4 議案第2号 令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第5号）
- 第 5 議案第3号 副町長の選任について

○出席議員（12名）

1番	佐藤大輔君	2番	荒生博一君
3番	湯川千悦子君	4番	米澤義英君
5番	金子益三君	6番	林敬永君
7番	茶谷朋弘君	8番	中瀬実君
10番	井村悦丈君	11番	北條隆男君
13番	岡本康裕君	14番	中澤良隆君

○欠席議員（1名） 12番 小林啓太君

○遅参議員（0名）

○早退議員（0名）

○地方自治法第121条による説明員の職氏名

町長	斉藤繁君	副町長	佐藤雅喜君
教育長	鈴木真弓君	総務課長	上村正人君
企画商工観光課長	宮下正美君	保健福祉課長	三好正浩君
教育振興課長	高松徹君		

○議会事務局出席職員

局長	谷口裕二君	次長	甲斐幹彦君
主事	進梨夏君		

午前10時00分 開会
(出席議員 12名)

◎開会宣告・開議宣告

○議長(中澤良隆君) 御出席まことに御苦労様です。ただいまの出席議員は12名でございます。

これより令和7年第6回上富良野町議会臨時会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎議会運営等諸般の報告

○議長(中澤良隆君) 日程に入るに先立ち、議会運営等諸般の報告をいたします。

事務局長。

○事務局長(谷口裕二君) 御報告申し上げます。

本臨時会は、10月17日に告示され、同日、議案等の配布を行っております。

10月15日に議会運営委員会が開催され、付議事件、会期等について審議が行われ、会期は本日10月21日の1日間と決定しております。

議事日程の内容につきましては、お手元に配付のとおりであります。

本臨時会の案件は、町長から提出の議案3件であります。本臨時会の説明員につきましては、町長以下、関係者の出席を求め、別紙配付のとおり出席しております。

以上であります。

○議長(中澤良隆君) 以上をもって議会運営等諸般の報告を終わります。

◎日程第1 会議録署名議員の指名について

○議長(中澤良隆君) 日程第1 会議録署名議員の指名について、を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、議長において、

7番 茶 谷 朋 弘 君

8番 中 瀬 実 君

を指名いたします。

◎日程第2 会期の決定について

○議長(中澤良隆君) 日程第2 会期の決定について、

を議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は、本日1日間といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(中澤良隆君) 御異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日間と決定しました。

◎日程第3 議案第1号

○議長(中澤良隆君) 日程第3、議案第1号、専決処分承認を求めることについて、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第4号を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長(上村正人君) ただいま上程いただきました、議案第1号、専決処分承認を求めることについて、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第4号につきまして、提案の要旨を御説明申し上げます。

上富良野中学校吹奏楽部が、去る8月29日日開催の第70回北海道吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞し、北海道代表に選出され、10月11日開催の第25回東日本学校吹奏楽大会に出場されることから、大会出場経費負担について、所要の補正を行ったところであります。

また、財源については、児童生徒教育振興基金の一部を支消し、財源調整を図り、9月30日付けで専決処分を行ったところであります。そのようなことから、地方自治法の規定により予算の内容を議会へ報告するとともに、承認を賜りたく、本議案を上程するものであります。それでは以下、議案の説明につきましては、議決項目の部分についてのみ説明をし、予算の事項別明細書につきましては省略させていただきますので、ご了承願います。

議案第1号をご覧下さい。

議案第1号、専決処分承認を求めることについて。

地方自治法第179条第1項の規定により、下記事項について別紙のとおり専決処分したので、同条第3項の規定により報告し、議会の承認を求める。記。処分事項、令和7年度上富良野町一般会計補正予算(第4号)。裏面をご覧ください。

専決処分書。令和7年度上富良野町一般会計補正予算(第4号)を地方自治法第179条第1項の規定により、別紙のとおり専決処分する。令和7年9月30日、上富良野町長 斉藤 繁。次のページをご覧ください。

令和7年度上富良野町一般会計補正予算(第4号)。

令和7年度上富良野町の一般会計の補正予算(第4号)は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3,100千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ90億3,827万5千円とする。

第2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第1表歳入歳出予算補正による。

1ページをご覧ください。第1表につきましては、款ごとの名称と補正額のみ申しあげます。

第1表、歳入歳出予算補正。

1、歳入。

15款、繰入金3,100千円。

(会場より「19款」との声あり。)

たいへん失礼いたしました。

1、歳入。

19款、繰入金3,100千円。

歳入合計3,100千円。

2、歳出。

9款、教育費、3,118千円

20款、予備費、3,118千円。

失礼いたしました。もう一度言います。

9款、教育費、3,118千円

20款、予備費、18千円の減。

(会場より「12款」との声あり。)

たいへん失礼いたしました。

(会場より「落착着け」との声あり。)

少し落착着きます。12款、予備費、18千円の減。

歳出合計、3,100千円となります。

以上で、議案第1号、専決処分を求めることについて、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第4号の説明といたします。

ご審議いただき、ご承認くださいますようお願い申しあげます。

○議長(中澤良隆君) これをもって提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

(会場より「なし」との声あり。)

○議長(中澤良隆君) なければ、これをもって質疑を終了いたします。これから討論を行います。

討論はありませんか。

(会場より「なし」との声あり。)

○議長(中澤良隆君) 討論なしと認めます。

これから議案第1号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は、ご起立願います。

(賛成者起立)

○議長(中澤良隆君) 着席ください。

起立多数であります。

よって、議案第1号、専決処分の承認を求めることについて、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第4号は原案のとおり可決されました。

◎日程第4 議案第2号

○議長(中澤良隆君) 日程第4、議案第2号、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第5号を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。総務課長。

○総務課長(上村正人君) ただいま上程いただきました、議案第2号、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第5号につきまして、提案の要旨を御説明申し上げます。

1点目は、臨時福祉生活支援事業に係る事業費の補正であります。

2点目は、プレミアム付き商品券発行事業負担に係る事業費の補正であります。

以上申し上げた内容を要素とし、不足する額21,690千円については、予備費を充用し、一般会計補正予算を調製したところであります。

それでは以下、議案の説明につきましては、議決項目の部分についてのみ説明をし、予算の事項別明細書につきましては省略させていただきますので、ご了承願います。

議案第2号をご覧ください。

議案第2号、令和7年度上富良野町一般会計補正予算(第5号)

令和7年度上富良野町の一般会計の補正予算(第5号)は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ500千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9,038,775千円とする。

第2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第1表歳入歳出予算補正による。

1ページをご覧ください。第1表につきましては、款ごとの名称と補正額のみ申しあげます。

第1表、歳入歳出予算補正。

1、歳入。

16款、道支出金500千円。

歳入合計500千円。

2、歳出。

3款、民生費、3,690千円

7款、商工費、18,500千円

12款、予備費、21,690千円の減

歳出合計、500千円となります。

以上で、議案第2号、令和7年度上富良野町一般会計補正予算第5号の説明といたします。

ご審議いただき、議決くださいますようお願い申し上げます。

○議長（中澤良隆君） これをもって提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。2番、荒生博一君

○2番（荒生博一君） 今、プレミアム付き商品券発行事業負担に関して、9ページになりますがお伺いさせていただきます。今回、事業を設計するにあたり、令和6年度からの繰越明許費600万円で対応するとのことですが、私の記憶の中では、春先に実施した同事業の余剰財源という認識でよろしいでしょうか。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 2番、荒生議員からありました、プレミアム付き商品券発行事業に関する財源の御質問にお答えします。この事業につきましては、基本的に今回は一般財源で行うことで予定をしておりましたが、昨年度から繰越しをしております国の交付金につきまして、現時点で余剰財源があるということなので、今の時点で使用することができますので、使用しなければ国へ返す形になりますので、今回、この中で使わせていただくことで予算を組み立てたところでございます。以上です。

○議長（中澤良隆君） 2番、荒生博一君。

○2番（荒生博一君） 今回の事業の趣旨といたしましては、町民の生活を支援することを最大の目的としておりますが、販売の対象者ということで、もちろん18歳以上で、町内に在住する者またはということで、町内に勤務する者ということがありますが、これまでの間もこのような形態で販売に当たっては、町内の勤務する他市町村からの勤務従事者の方を対象としておりますが、この事業においては、やはり町民ファーストであるべきと考えますが、これまで同様に範囲をこのように広げた理由をお聞かせ願います。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 2番、荒生議員からありました、今回のプレミアム商品券事業に関します、購入対象者の部分のご質問にお答えさせていただきます。今回の事業につきましては、先程、議員の方からありましたように、第1の目的につきましては、いわゆる物価高騰

対策ということで、町民の皆さまの生活支援を第1にということで事業を組み立てているところでございます。ただ、今回の予算に当たりましては、様々なところから出す手法がありますが、結果といたしましては、いわゆる商工費から予算計上をするという形で、今回の事業を行うという形になりましたので、プラスの要素としまして物価高騰ということで生活者の目線、プラスやはり町内事業者さんの支援というのもこの中には組み込まれているというところでございます。その中で対象者の町外から上富良野の方に勤務されている方の部分でございしますが、こちらにつきましては、基本的な事業につきまして、これまで行ってきた事業と同じような事業の中で、どこで物価高騰対策という第1番目の目的を達成するのかということでございますと、販売の商品券の使い先、小規模店と大規模店の割合のところ、先ず物価高騰対策にシフトをすることで、今回半分ずつにすることになったところでございます。それと今ありました町内で仕事をされる方を対象に含めたというところでございますが、実質、これまでもこのようにやってきておりまして、先般、ご意見もいただいたところでございますが、上富良野に外からお勤めをされて購入をされている方は、全体の2%程度の数字しかないとございましたので、大きく町民の皆さまの購入の機会を奪っていることがないということが1つありますし、また、先程も言いましたが物価高騰対策に、商工業者さんの振興という部分でございますと、外から通われている方が、それを購入していただいて、自分が利用している町内の事業者さんで使わせていただくことも第2次的な目的の商工振興と、これからも必ずやるということではありませんが、事業というものは継続しますので、繋がりという部分についても残しておく方が、より得ではないのかという判断のもとに、今回につきましても春と同様の18歳以上の町内に在住する方か、上富良野に来てお勤めされている方につきましても引き続き購入対象者にさせていただいたという状況であります。以上です。

○議長（中澤良隆君） 2番、荒生博一君。

○2番（荒生博一君） 只今のご説明ですと、実際に町外から上富良野町に勤めておられる方の購入の実績としては、約全体の2%ということで理解させていただきました。この春行いましたプレミアム商品券事業においては、予約販売で完売することなく、再販売をしたという実績があるため、本事業実施スケジュールを見ると、一般販売期間なしとなっています。これも当然、時期的なものであるとか、今後の需要を考えて、当然ながら予約販売で一杯になるという想像のもとで書かれていることでしょう。また、予約販売が上限の1億円を超えた場合、抽選という

ことでご説明を賜っております。もしこの2%の方にサービスをしなければ、一方で町民の溢れた2%の方に還元できたのではないのでしょうか。もう一度お伺いします。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 2番、荒生議員からありました、販売に関する部分のご質問にお答えしたいと思います。先程、全員協議会の中でお示ししました資料につきましては、一応、予定スケジュールということで、予約数が予定数に達した場合は、一般販売はないということを前提に、この期間、とりあえずなしという形になってございます。こちらにつきましては、実際にやってみまして、販売予定数量まで行かなかった場合につきましては、11月下旬の締め切った後に一般販売を行うということも想定をして、今、準備を進めていただこうと計画をしているところでございます。あと、予約が販売予定数を超えた場合の抽選というところでございますが、こちらにつきましては、先ず、後からありました町外者を除けば、その分予定数が増えるのではないかという部分のご意見、最もかと思いますが、今回、この町外者を含めたという部分につきましては、先程、申しあげたとおり町内事業者との結び付きの継続による町商工会、失礼しました、小規模事業者さんの支援というところでございますので、そちらについては、その分引けばということもありますが、変えるということは、今のところは想定をしていないところでございます。あと、抽選のことですが、こちらにつきましては、基本的には購入された方を一律抽選の対象にすることはしておりませんで、第1番目の目的が、いわゆる物価高騰対策で町民の皆さんに広く同じですので、基本的に世帯当たりの購入組数の多い所から割り当てを減らすというような形で、多くの町民の方が購入できるような形で取り進めていきたいと、今のところ想定しているところでございますので、最低限1万円から買えますので、1万円買ったところも、家族が多ければ15万なり、18万なり買ったところも同じように、2分の1の確率という想定をしていないところでございます。以上です。

○議長（中澤良隆君） その他、質疑はありませんか。

8番、中瀬実君。

○8番（中瀬実君） 私もプレミアム商品券の関係で少しお伺いをいたします。今回、プレミアム商品券を発行していただいたことは、今の物価高の中で、金額的にはどうかかわかりませんが、町民の皆さんは、この件に関しては少し発行されることに対しては、ほっとしているところではないかと思っておりますが、私が聞きたいのは、今後の対応のことについてであります。商品券を発行していただくことは、今までも何回もやっていただいておりますが、この発行した結果が、どうだったのかという検証、

そして今後、例えば購入者に対して、購入対象者、販売方法、限度額、そういった意見を聞くアンケートを取る、そういった考えは今までなかったのか、今後は予定があるのか、その辺をお伺いします。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 8番、中瀬議員からありました、プレミアム付き商品券発行事業負担に関します2点の質問についてお答えします。今後の対応というところでございますが、こちらにつきましては、今回のこれまで行ってきた実施結果ですとか、あるいは今回行った結果によりまして、どのように売れ、どのような感じで予約がされて一般販売がされたのか、あるいはどのような世帯の状況の中で購入がされたのか、最終的にはそれぞれの商品券が、どのような町内の事業者さんに行ったのかの部分につきましては、毎回、商工会さんの方でまとめていただいて町の方に返ってきておりますので、それを見ながら評価をしていくような形になってございます。あと、今後の対象者あるいは限度額の部分につきましては、今の時点では町民向けのアンケート等々については取る予定はしていないところでございます。これまで行った実績の中で、一部事業等を見直ししながら都度進めてきているところでございますので、今後につきましては、これまでの結果と今回の結果を踏まえながら対応していき、この政策自体が必ず行うという事業ではございませんので、今後もこういう事業を活用して行う時におきましては、それまでの結果を踏まえながら、どういう部分を見直すべきか等について、また、組み立てをしまして議員の皆さんにお諮りをするような形になるものかと考えております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 8番、中瀬実君。

○8番（中瀬実君） 基本的には、買いたくても買えない。いわゆる限度額が決まったりとか、購入対象者が一定程度緩和されることによって買える人もいるかと。ある程度考え、今後はですね、考えて行っていた方がいいのかと思います。今のところ、今後のことについて、今、私がお聞きしたことに対しては考えていないということでありましたけれども、今後は考えていくべきと私は思っています。ですから、考えていくべきと思っておりますので、もう一度確認します。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 8番、中瀬議員からありました、購入対象者等の見直しという部分でご意見をご質問いただいのかと思います。現状の中では、今回の事業も含めて町内に住まれている買えない人は基本的にいないと考えております。実際に商品券をお金を出して買える方は、18歳以上ということで学生とか子供では

買えないことになってございます。あと、限度額の方は、18歳以上ではなく赤ちゃんも含めまして世帯の人数分までは買えますよという形になっておりますので、今の時点で制限をしている部分はない形になってございます。それ以上拡大するとすると、町内にいない方まで広げる形になります。あと、買いたくても買えないという部分にありますが、この事業につきましては、1度自分の財布からお金を出さなければ商品券が購入できない形が実際でございますので、実際にお金を一時的に負担することが出来ない方に対しての対応というものは、福祉サイドでのお話になるかと思っておりますけれども、今回の補正予算に当たりましては、プレミアム商品券発行事業と合わせて福祉の方でのいわゆる福祉灯油の事業もありますので、施策としては両輪で今回の補正予算を計上させていただいているところでご理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 8番、中瀬実君。

○8番（中瀬実君） 今の答弁からいけば、買いたい人は買える訳だから別に特に今後検討する必要はないということで受けました。やはり、購入者のニーズに応える意味では、今後の発行に当たっては今回発行したことがベストだと思ってやるよりは、ある程度意見を聞いて、意見の中で、こういう方法があるのかということで発行した方がいいと思います。購入者から抜き打ちでもいいですけど意見を聞いて、今後の発行をすべきと私は思っています。再度お願いします。

○議長（中澤良隆君） 副町長答弁。

○副町長（佐藤雅喜君） 8番、中瀬議員のご質問にお答えします。いろいろなニーズがあるのだからきちんと調査しなさいとのご指摘をいただいたかと考えております。今までは、商品券を使用していただいた個店の方々からいろいろな意見をいただいております、このような傾向ですとか、このように使われています等は商工会の方で取りまとめいただいて、使い道の動向がわかっていると、それから購入している世帯層等についても、世帯で申し込みをし、今、課長が説明したとおり何人分ですと購入されるで、一定程度の購入する方のデータも商工会さんの方で把握していただいて町へ報告をいただいているところでございます。どのような部分でアンケートを取るかも含めて、例えば中瀬議員がおっしゃっている、買えなかったような方はどのような方なのかとか、購入した方のデータは得ることはできますが、購入しなかった方、買っても購入しなかったのか、買えなかったのかいろいろな部分があると思います。その部分をどのようにして調べた方がいいのか、今のところ明確な手法は思い当たりませんが、この件だけの問題ではないのかもしれないの

で、購入できないことは。そのようなことも含めて、どのようにして調べていいのか研究を、今は明確な答えを持ち合わせておりませんので、研究して行くべきかと考えておりますのでご理解を賜りたいと思います。

○議長（中澤良隆君） その他、質疑はありませんか。

4番、米澤義英君。

○4番（米澤義英君） 商品券の部分についてお伺いします。確かに消費を喚起する点では非常にいいものかと思っております。商品券の選定に当たって一般的に諸事情で所得の少ない方は、別な給付で対応する形になっておりますが、それすら対象から漏れてしまう方が商品券を買えない世帯の方もいるかと思っております。そういう時に一般的に公平さが求められてくると思っております。水道、下水道の減免だとか、お米券の配布だとかをされている自治体もありますが、この設定に当たっては、そういった選択肢というものも考えられたのかお伺いしたいと思います。非常に重大な問題だと思っております。臨時福祉生活支援事業について、こういう方向では是非やっていただきたいと思うのですが、当然、こちらの方から案内等が対象者にも言っているかと思っております。案内が来てもなかなか内容が理解できないという声がありまして、たまに相談もあります。窓口対応が非常に重要になってきていると思っておりますが、しっかりと対応が必要かと思っておりますが、これらの点について答弁を求めたいと思っております。

○議長（中澤良隆君） 副町長答弁。

○副町長（佐藤雅喜君） 4番、米澤議員のご質問にお答えします。先ずもって商品券を買いたくても買えない部分での給付について、今回は抱き合わせではないですが、今、課題となっている福祉灯油のところは上程させていただいております。議員のおっしゃられるとおり、所得の部分まで考えますと本当に商品券購入という形よりも給付という形とか、免状とか、減免とか、きちっと検討すべき課題だと思っておりますし、事例も議員がおっしゃったとおりお米や水道料を行っている自治体があるのも承知しております。先の委員会でもお話しましたが、やはり国の給付制度、減税等を待っている中で、もう待ちきれなくて今回年末に、去年の反省もありまして年末にしっかりと一般財源を使って、今回、先ずはプレミアムの商品券を行うところで今回の上程でご提案でございまして、これから国会の動き、いろいろ報道でありますけれども給付の制度とか国から言われた場合には、今、議員がおっしゃっている方々への直接的な応援になりますので、国の提案を直ぐ受けて、予算がきちんと財源を受けたら速やかに行えるよう準備、心得をしていくことが大事なのかと思っておりますし、その他にも制度以外にも自治体が自由度を持てるような交付金的な対応、対策を国が出してきた

場合にも、今回の上程が暮れ、年末年始はギリギリですから、2月3月になるかも知れませんが町民の皆さまに行き渡るような施策を国の財源に応じて、検討、実施していくことは常に考えると心得ておりますのでご理解を賜りたいと思います。

○議長（中澤良隆君） 保健福祉課長答弁。

○保健福祉課長（三好正浩君） 8番、米澤議員の臨時福祉生活支援事業の周知方法または周知後の理解についてのご質問にお答えさせていただきます。まずは、周知方法につきましては、町広報の方に掲載する他にホームページまたは防災無線による周知の方を一般的に行ってまいります。ある一定程度周知をして申し込みを取った後、ある一定程度の期間経ちまして、まだ未申請の方がいるということも想定しております、そういう方につきましては、おそらくこの方が対象になるのではないかとこのところにつきましては、例えば民生委員さんからの声掛けをしていただくとか、あと防災無線を何度かかけるとか、そういったことで我々としてもなるべく対象となる方については、周知が行き渡るように努力してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 6番、林敬永君。

○6番（林敬永君） プレミアム付き商品券についてお伺いします。先程から同僚議員が質問しておりますとおり、今回は、私も昨年の12月にプレミアム商品券、年末という話をしましたが、答弁では財政が厳しいから国の交付金を待ってということで結果的に年を越して対応されたのが、今年の2月3月ですか。今回は、いち早く町として対応することは、凄く評価私自身はするものですが、何というのでしょうか。町民の暮らしを支援するというのが第1義的であれば、先程、同僚議員が言いました町内に勤務する方という部分と区別して支援を拡大するべきだと思うのです。この年末、たくさんの需要があると思っています。昨年は12月に本当に需要があるという声がたくさんあるにも関わらず、町は財政が厳しくて国の交付金が決まらないから、今回は一般財源を1,850万円を投じてでもやりたい。今、副町長の答弁を聞いていれば、国からの交付金があれば第2弾をやるように私は聞きました。結果的に生活支援と商工支援、生活支援は上富良野に暮らしてよかったなという気持ちを強く持てるような対応で、プレミアム率も20%の根拠も明確にわかりませんが。本当に物価高が止まらないです。私も買い物に行くと本当に物凄い状況、100円の物が200円近くになったり本当に凄いと思う中で考えれば、区別をしながら更なる商工振興も第2弾で検討すべきだと私は思います。今年の9月にも一般質問で同僚議員がされておりました。その時には、やると発言されましたから今日を

迎えているのかと思いますけれど、いずれにしても今回のプレミアム付き商品券は年末の部分ですので、需要は計り知れないと考えますので、是非、対象者又は町民の声、ニーズをしっかりと聞くべきだと考えますが、この点について質問させていただきます。

○議長（中澤良隆君） 副町長答弁。

○副町長（佐藤雅喜君） 6番、林議員のご質問にお答えします。今回のルールになった事情については、先に企画商工観光課長から申し述べましたので、制度とか細かい数字の事ではなく、今、林議員がおっしゃったとおり二面性を持っているので少し中途半端ではないかのご指摘かと思えます。第1第2の目的を持って今回の制度を組み立てさせていただきましたが、やはり消費者にとっても物が高くなっている、なかなか買えないということもありますし、それから物が高くなったがゆえに消費してくれなく、買ってくれないという面もあるかと思う。そういったことも含めて、今までやってきましたけど町内の商工業の活性化の部分も目的として全て外すことは出来なかったということはお理解いただきたいと思います。その中で、出来るだけ食料品等を多く買うために大型店のスーパーとか食料品を扱っているところの割合を増やすなどの対応を図っており、2つの目的があることも考慮して今回の制度を作ったことはご理解いただきたいと思います。それから財源的なものを、いつも申しあげて申し訳ないのですが、今回一般財源を使ったということで、予備費がない中から2,000万円程度の一般財源を投入して、年末の需要、物価高騰対策ということで組ませていただきました。それとは別に商工業者分と対策が出来る財源があれば大変嬉しいかと思えますが、今の一般財源の状況から一定程度の財源を確保することで留めさせていただきたいのでご理解をいただきたいと思います。次の手が国で打たれた場合には、次の事を行うことを確認いただいたかと思いますが、どのような交付金があるのか、獲らぬ狸の何とか言えませんが、示された場合には、是非、速やか給付などの手法を検討して実施するように努めて努力してまいりたいと思いますのでご理解を賜りたいと思います。

○議長（中澤良隆君） 6番、林敬永君。

○6番（林敬永君） 町民の生活暮らしは、本当に1年前の私が一般質問した時よりもはるかに厳しくなっています。現役世代でいけば給与が上がるということがございますけど、年金世代についてはそういうことは全くない。そんな中でも上富良野に住んでいて良かったという思いが出来るのは、今回のいち早いプレミアム付き商品券の発行だと本当に私も認識しております。だからこそ町民生活支援と商工支援とは、別々に分けてしっかり対応す

べきと考えたので、質問させていただいております。その点もう一度確認させていただきますが、区別してしっかり底支えして、暮らしが上富良野に住んでして良かったと思えるような対応は取られないのかどうか確認をさせていただきます。

○議長（中澤良隆君） 町長答弁。

○町長（斉藤繁君） 6番、林議員のご質問にお答えしたいと思います。プレミアム商品券を今回発行するに当たりまして、我々の町民を思うこの政策を理解していただき本当にありがとうございます。その中で議員のおっしゃるとおり、町民の物価対策向け、そして商工振興と分けることも当然可能ですが、今回の制度に関しては、やはり両面がありますので、同じ町民、消費する側と提供する側、商工業者のことも、これを合わせたからといって別に矛盾するわけではございません。そう思っておりますので、今回は、その2面性を有効的といいますか1つの商品券でカバーしようと思ってやっておりますので、是非ご理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 6番、林敬永君。

○6番（林敬永君） 町長が言われることも私は十分理解しております。その中でもプレミアム付き商品券、こんなに固定化されるようなぐらいの生活が大変な社会が来るというのは、誰もが想像なんかつくわけもない。そんな中でも先程担当課長のこの政策プレミアム付き商品券が必ずしもやるものではないという発言もありました。本来は町政執行の部分だから町長から発する部分かなと理解しますが、もう既に担当課長がそういう考えを持ってやっていることは、もう町長もそういうふうに使われているのか最後に確認させていただきたいと思います。

○議長（中澤良隆君） 町長答弁。

○町長（斉藤繁君） 6番、林議員のご質問にお答えしたいと思います。プレミアム商品券に限らず、いろいろな施策、物価高騰、経済対策等を含めて、全く決まったものはない。そう思っておりますし、かといって全く白紙の状態ですが、ゆえに臨機応変に、将来、制度としては確立、条例等ではありませんが、その分素早くといいますか予断を持たず対応していくとそういう意味です。将来はどうなるかというのは、どうなるかというのはマイナスの部分もありますし、更に拡充するということも含めて、将来はまた、あらかじめ予断を持って語ることは出来ませんが、基本的にはそういうふうな政策として気持ちを持っております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 5番、金子益三君。

○5番（金子益三君） まさしく同僚議員がいろいろ質問していただいたので重複しない程度にお聞きします。今回、様々な前回の反省を経て、この幅出しが出て、なおか

つ物価高騰、住民の物価高騰対策ということでもいち早く取り組まれたことにも誠に敬意を表するところでございます。1点2点数点お伺いしたのですが、先ず基本的な部分で、今までは商工振興ということですと打ち出されてきたことは十分理解して、それによって大型店舗、それ以外の小規模店舗で使える枚数に傾斜がかかっていました。今回、50になったことは本当に町長の住民に対する、物価高騰対策というところでもくみ取れますし、一方で、先程から課長がおっしゃっているように、やはり商工振興の部分も否めないというところも大いに理解できます。それで、今までの部分と大きくシフトされたので、今後においては、やはりややまだしばらく物価高騰の余波というのは続きますし、それに伴う給与の所得の倍増というか増は、地方においてはまだ明確な方向が認められないのであれば、今後においては、本当に町民の皆さま対象にする生活支援ということで、当初予算で組むべきになるものじゃないかと思いますが、今回の補正は全然認めるところでございます。今、町長が同僚議員の質問に、今後の様々な展開についても考えられるということであれば、こういったものは当初予算で組んでいくのもじゃないかと考えるところと、あともう1点、経費なのですが、今回も450万円かかっております。実は私もこのプレミアム付き商品券事業当初から参画している者といまして、ここにも物価高騰の波が来て、当初はこんなにかかってなかったのですが、今の発行の印刷代であったりとか、人件費だったりとか、告知方法だったりとか積み上げていった時に、事業主体とする商工会の積算ではこの金額になったと思いますが、出来れば事業主体となる商工会と綿密な打ち合わせを密にさせていただくことで、固定費に係る部分を、今現在、郵送で全戸に配布をしている状況になっておりますが、例えば町がもう少し協力して広報で周知するとか、町民の皆さまにですね、郵送料を抑えるとか、人的な部分も行政がもう少し手伝うから人件費を抑えるとかして450万円、紙質を落とすとかいろいろあるかと思いますが、そのこの部分の固定費を抑えることによって、今の20%のプレミアム率を例えば25%に上げるとか、そういう考え方は今回持たれなかったのかお伺いします。

○議長（中澤良隆君） 企画商工観光課長答弁。

○企画商工観光課長（宮下正美君） 5番、金子議員からありました2点に関する質問の内、2点目の事務費の内訳の部分につきまして、私の方からお答えさせていただきます。先ず、今回の事務費の部分でございますが、予算の中で内訳としております450万円につきましては、春に行った分の実績に加えて、先程、金子議員からも

ありました物価高騰で少し経費がかかっている部分も加味しまして450万円ということで、商工会の事務局と調整させていただいて設定をさせていただいたところでございます。その中で、いろいろな見直しによって個々の部分を縮減してプレミアムの率の方に与えることは出来ないのかという部分でございますが、当初予算ではなかなか経費がかかる部分は変えることは出来ないですが、検討として行ったのかと言われますと、その部分については十分な協議はしていない中で今回の事業を立てさせていただいたところでございますので、今後、そういう部分につきましては、今回の実績を踏まえながら行っていきたいですし、あと町として結果、行うところにつきましては、町として行っていくところなのですが、実質かかる費用の内、郵送料の部分等々につきましても広報でタイミングが合えば、広報の方で載せたりすることも出来ますが、必ず広報で行えるのかということもございません。今後、先程、私の方の言い方で、今後行うかどうかのかわからないような答弁をしたところでございますが、今後も同様の事業を行っていく中では、そういう部分も考慮しながら財源の確保等に努めて行きたいと思っております。以上です。

○議長（中澤良隆君） 副町長答弁。

○副町長（佐藤雅喜君） 5番、金子議員のご質問にお答えします。予算編成全般のことにも関わりますので、私の方から説明、答弁させていただきます。プレミアム商品券のようなもの、それから物価高騰対策とか、今回上程させていただきますと、燃料だから去年からわかっていたと言われるかと思いますが、常にそういったものは国もそうでしょうが、その時の物価情勢を見ながら制度や何か検討しております。やはり、レギュラーといいますが、レギュラーで生活が苦しい方をしっかりとフォローするのは、こういうようなイレギュラーのものではなく、しっかりとした扶助費の中とか、給付とかでしっかり年間通じてあるものについては、当初予算で載せるべきなのかと思っています。そういった部分の拡充というのが、本当にこの何年も続く物価と所得の格差、逆転というのか、何年も続くようであればやはり国全体として給付も検討していくことも必要になってきますし、1自治体だけで臨時的にやるようなことで追いつくのかどうか考えますと、当初予算の中でやるよりも、やはり国からきたから急に補正もします。今回のように年末に向けてお金をかき集めて、このような事業で展開していきますというふうなことで、どうしても補正対応、臨時的な対応になってしまうことは否めないのかと思っています。ただ、今、金子議員がおっしゃるように、レギュラーのもの、常に困っているものについては、やはり当初予算に載せるような制

度の構築というものがなければならないと思います。そういったことを国に求めたり、それから先程の委員会でしたが、結局、北海道からこれしかこないのもありました。それらも含めて全体でしっかり支え合うような方向でないと、今回の予備費だけで対応するような財源では、当初予算に載せるのは非常に苦しい。予算組み立て上の言い訳になりますが、財源の部分、制度の部分をしっかりとしたものがなければ対策は出来ないかと思っておりますので、今回、プレミアム商品券ですから商品券に限って言いますと、なかなか当初予算からというよりは、景気、雇用とかの状況を見てというような形で対応、それから国の財源充当とかの対応を見ながら都度出来るだけ早いタイミングでやっていくことが大事なのかなと思っておりますのでご理解を賜りたいと思います。

○議長（中澤良隆君） 5番、金子益三君。

○5番（金子益三君） 先ず、この事業に対しては大賛成であることが大前提です。当初予算が必要かと、一般質問みたいになり申し訳ないですが、今、課長がご答弁された中で、この積み上げいく中でかかる経費についてもタイミングが合えば町も応援したいということなのです。今回スピード感を持ってやられたということです。前回もそうですから、町広報の発行のタイミングと告知のタイミングがどうしてもズレてしまうとか。これは補正でやるからどうしてもこのようになる。ある程度事業主体である商工会なのか違うところなのかは別としても、ある程度当初予算の中で、この時期にやりたいなとあれば、もう少し計画的にやることによって、結果その経費の縮減に繋がると思います。上富良野町だってそんなに裕福な財源でないことを私もわかりますし、当初予算で他にも除雪だとか本当にギリギリの中でやっているのは重々わかりますけれども、是非、今回大きく舵を切り替えて町民の皆さまの生活支援に充てるということは初めてだと思います。このプレミアム商品券事業になった時、昔は商工会の理事さんが袋詰めしたこともあるぐらい経費を縮減しながらキツキツで行った時代がある中で、今は潤沢とは言えませんが、ある程度の経費をみていただいたり、お店の中の賦課金も少ない中で行われているのは、事業所も苦しい中で町も応援してくれていると私は理解しておりますから大変ありがたいので、まだまだ様々な反省点が今回も出ると思いますので、今まで積算してきた経験と、今回舵を切り替えたことによる良い所また問題点を、先程、同僚議員、町民に限定した方がいいとか、いろいろあったと思いますが十分に精査していただいて、是非、次の事業が町民にとって恵まれるというか充実される事業になることを期待しますし、そういったことを是非やっていただきたいと思いますが、いかがで

しょうか。

○議長（中澤良隆君） 副町長答弁。

○副町長（佐藤雅喜君） 5番、金子議員のご質問にお答えします。確かに臨時的、それから補正であるために熟度とか制度の完成度といいますか、熟度が常に付け焼刃という言葉は変かもしれませんけれども、低いよというご指摘でございますので、補正するにしても一定程度例えば9月の定例会で本当に間に合えば1番いいのでしょうが、しっかり努力していきたいと思います。当然、経費をしっかりと見つめ直すことは、どの事業、これに限らず、予算執行において必要、大変重要なことですので出来るだけ計画的な対応が出来るように配慮を続けていきたいとおもいますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（中澤良隆君） その他、質疑はありませんか。
（会場より「なし」との声あり。）

○議長（中澤良隆君） なければこれをもって質疑を終了いたします。

これから討論を行います。

討論ありませんか。

（会場より「なし」との声あり。）

○議長（中澤良隆君） 討論なしと認めます。

これから議案第2号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は、ご起立願います。

（賛成者起立）

○議長（中澤良隆君） 着席ください。

起立多数であります。

よって、議案第2号、令和7年度上富良野町一般会計補正予算（第5号）については、原案のとおり可決されました。ここで暫時休憩いたします。再開は11時30分といたします。事務局長から連絡がございます。

○事務局長（谷口裕二君） この後、全員協議会を再開いたしますので、議員におかれましては第2会議室の方へ移動をお願いします。

午前11時01分 休憩

午前11時30分 再開

○議長（中澤良隆君） 休憩に引き続き、会議を再開します。

◎日程第5 議案第3号

○議長（中澤良隆君） 日程第5、議案第3号、副町長の

選任についてを議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。町長、斉藤繁君。

○町長（斉藤繁君） ただいま上程いただきました、議案第3号、副町長の選任につきまして、提案の理由をご説明させていただきます。

現在、副町長を務めていただいております佐藤雅喜氏が、10月末をもって任期満了を迎えるところであります。佐藤氏につきましては、人格、見識ともに優れた方であり、これまでの本町の行政推進に大きく寄与されてこられました。今後においても、この経験をさらに本町の行政に生かしていただき、一層活躍していただきたく、引き続き佐藤氏を副町長に選任いたしたく議会の同意をお願いするものであります。

なお、佐藤氏の経歴等につきましては、別添配布させていただいておりますので、ご高覧を賜り、参考としていただきたいと存じます。

以下、議案を朗読して、御提案させていただきます。

議案第3号、副町長の選任について。

上富良野町副町長に次の者を選任したいので、地方自治法第162条の規定により、議会の同意を求め。

記

氏名、佐藤雅喜

以上でございます。ご審議賜りまして、ご同意賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（中澤良隆君） これをもって提案理由の説明を終わります。

本件は、先例により質疑を省略し、これより討論に入ります。

討論はありませんか。

（会場より「なし」との声あり。）

○議長（中澤良隆君） 討論なしと認めます。

これから議案第3号を採決いたします。

本件は、原案のとおり選任に同意する方は、ご起立願います。

（賛成者起立）

○議長（中澤良隆君） 起立多数であります。

着席ください。

よって、議案第3号、副町長の選任については、同意することに決定しました。

◎閉会宣告

○議長（中澤良隆君） 以上をもって、本臨時会に付議された案件の審議は全て終了いたしました。

ここで、先程、選任されました副町長より一言ご挨拶をいただきたいと思います。自席においてご挨拶をお願い

します。

○副町長（佐藤雅喜君） 只今、副町長の選任についてご同意をいただき誠にありがとうございます。私自身4年間力足りない部分多々あり、不足している部分においては議員の皆さまに非常にご迷惑をかけながら、いろいろな方々に助けられながら4年間1期目の任期を過ごしてまいりました。これから私も来月還暦を迎えますので、健康の面、それから生活の面を含めて、公務の面含めて、しっかりとコントロール出来るように努めながら、認めていただいた期間、精一杯頑張っていきたい所存でございますので、引き続き議員各位におかれましてはご指導の程よろしく願いしたいと思います。誠にありがとうございました。

○議長（中澤良隆君） これにて、令和7年第6回上富良野町議会臨時会を閉会といたします。

午前11時34分 閉会

上記会議の経過は、議会事務局の調製したものであるが、その内容の正確なる事を証するため、ここに署名する。

令和7年10月21日

上富良野町議会議長 中 澤 良 隆

署 名 議 員 茶 谷 朋 弘

署 名 議 員 中 瀬 実